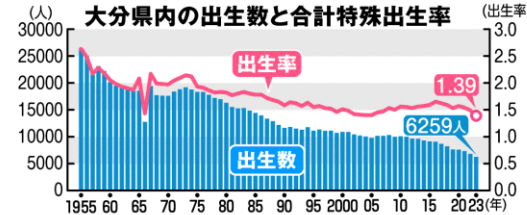




# 県内 赤ちゃん最少6259人 23年 出生率も過去最低

# 人口減 歯止めかからず



大分県は12日、2023年の人口動態統計(概数)を発表し、県内で生まれた赤ちゃんは6259人で、1899年の統計開始以降の最少を12年連続で更新した。女性1人が生涯に産む子どもの数を推計した合計特殊出生率も1・39で、過去最低になった。未婚や晩婚化が影響している。死亡が出生を上回る自然減も戦後初めて1万人を超えた。人口減少に歯止めがかからない。(21面に関連記事)

【出生】2022年に比べて539人減った。母親(15〜49歳)の年齢別に見ると、39歳以下の出生数は22年を下回った。一方で、40歳以上49歳以下は上回り、晩産化がみられる。合計特殊出生率は最低だった04、05両年を0・01を下回った。22年からは0・10を下がり、都道府県別の順位は二つ落ちて12位。九州・沖縄では福岡県(1・26)に次ぐワースト2位だった。

【結婚・離婚】婚姻数は3689組で、22年から348組減った。減少は4年連続で戦後最少だった。婚率(人口千人当たり)も下落傾向が続く。平均初婚年齢は男性30・4歳、女性29・4歳で、それぞれ0・2歳上がった。離婚は1695組で60組増えた。離婚率(同)は1・57で都道府県別で10番目に高かった。

【死亡】1万6757人で、22年より491人増えた。増加は3年連続で、高齢化の進行が主な要因。死因別は多い順に▽がん22・1%▽心疾患13・6%▽老衰11・3%など。自然減は1万498人で、1030人拡大した。今回の人口動態統計について、佐藤肇一郎知事は大変厳しい結果。出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまで切れ目ない支援策を、経済界とも連携して充実させていく。将来的な人口減少に歯止めをかけた」とコメントした。(児屋野香純)

〔問①〕 「合計特殊出生率」とはどういった数ですか。

〔問②〕 「人口の自然減」とはどういった状況ですか。

〔問③〕 この記事から浮かび上がる大分県の現状を話し合おう。

〔問④〕 人口減少を止めるためには、どのようなことが必要だと考えますか。